

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 広島県立賀茂高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒739-0043
広島県東広島市西条西本町 16-22

E-mail kamo-h@hiroshima-c.ed.jp

Website Website : http://www.kamo-h.hiroshima-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 348 名 女子 403 名 合計 751 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

職 名：教諭

氏 名：堀江 典子 (男・☒ 女)

E-mail：kamo-h@hiroshima-c.ed.jp

※学校の共用メールアドレスをご記入ください。共用メールアドレスがない場合、個人メールアドレスでも可。

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☐ そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 事業の目標

本校は創立 110 年目になる賀茂台地の伝統校である。ほとんどの生徒は卒業後、大学への進学を希望しているため、第1学年から習熟度別クラス編成を行い、個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行っている。また、姉妹校で韓国のユネスコスクールでもあるミチュホル外国語高等学校との、相互訪問交流などを通して、生徒の思考力・判断力・表現力を高め、豊かな心を育むとともに、グローバル社会に対応できる能力を育て、持続可能な社会を創造していく人材を育成することを本事業の目標とした。

生徒数	751 人 (男子 348 人, 女子 403 人)
教職員数	65 人 (非常勤講師 10 を含む)
平成 27 年 3 月卒業生の進路	国公立大 51, 私立大 155, 文科省所管外大学校 1, 短大 11, 専門学校 36, 就職 8, その他 13

2 事業計画

本事業の目標を達成するため、今年度は次のような計画を策定した。その中で特に、今年度総合的な学習の時間を中心に国際交流を進めていった。また、この取組について、東広島市教育委員会及び地元の広島大学と連携し、地域で一体となったESDの推進を行うようにした。

①第1学年

- ・ 5 月 台湾永豊高級中学との交流
- ・ 9 月 オーストラリア ジローン高校との交流
- ・ 7 月 グローバル人材育成プログラム
- ・ 10 月 本校教員が海外のユネスコスクール(姉妹校)を訪問し、国際関係についての授業を行う。
- ・ 10 月 広島大学留学生による講演 「Youは何しに日本へ？」
- ・ 11 月 海外のユネスコスクール(姉妹校)の教員2名が韓国の文化について授業を行う。
- ・ 11 月 地域の小・中・高等学校、海外のユネスコスクール及び広島大学が参加し、学識経験者の基調講演及び各校のESDの実践報告を行う研究大会を開催する。
- ・ 12 月 海外のユネスコスクール(姉妹校)の受入を行う(修学旅行)
- ・ 1 月 海外のユネスコスクール(姉妹校)を訪問し交流(ホームステイ)する。

3 各事業の概要

(1) 台湾永豊高級中学との交流

○目的: 社会の持続可能な発展に貢献する使命感と能力をもった生徒を育成するため、ESDの視点を重視した授業改善の推進に向けて、教職員の授業力の向上に資する。

台湾永豊高級中学修学旅行団の生徒との交流を通じて、両国生徒の親睦を深め、お互いの文化を理解し、グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する。

○日時: 平成27年5月27日(水) 8:50~11:00 事前・事後指導を含む。

○対象学年: 2 学年

○来校者: 約60人 校長 教員 通訳 行政担当者 など 約15名
生徒46名 (男子16名 女子30名 高校生32名 中学生14名)

○概要: はじめにクラスの代表が校内を英語で、案内した。その後、体育館で歓迎式典を全て英語で行った。式典ではESSが学校紹介をし、運動部がクラブ活動を紹介した。一方、台湾の生徒たちも、台湾の文化の紹介をした。その後の教室での交流では、お互いの文化(食べ物)について実物や絵を使い、相手の文化的な背景なども考慮に入れながら、説明をした。

(2) 台湾永豊高級中学との交流

○目的: オーストラリア ジローン高等学校の生徒との交流を通じて、両国生徒の親睦を深め、グローバル社会で活躍できる人材の育成に資する。

○日時: 平成27年9月18日(金) 9:30分~12:00 事前・事後指導を含む。

○対象学年: 2 学年

○来校者: 24名 引率教員等 3名 (男性2名, 女性1名)
学生 21名 (男性10名, 女性11名)
ひろしま国際センター担当者 2名

○概要：英語での歓迎式典では全6クラス中3クラスがそれぞれ広島を紹介やアトラクションをした。ジローン高校の生徒は学校やオーストラリアを紹介した。残りの3クラスは、5月の台湾永豊高級中学と同内容の交流をした。台湾の高校生との交流で明らかになった課題を踏まえ、交流の前には、台湾の高校生との交流の時以上に、文化的背景が違う相手に分かりやすいように、説明した。

(3) グローバル人材プログラム

○目的：持続可能な社会を構築し、世界的な視野に立って国際社会の平和と発展に貢献するために必要なグローバルな視点を養う。

○日時：平成27年7月21日（火）8：30～16：30

○対象生徒：2学年

○会場：広島大学総合科学部

○講師：一般社団法人「グローバル教育研究所」（東京都）認定講師3名

○講義内容：世界のどこでも働ける

地球の大きさを測った男

文化が違えば、ルールも違う

絹の道、あるいは破壊と偉大な業績の分かれ道

地球村の新しいルールを作ろう

(4) 本校教員の海外のユネスコスクール（姉妹校）での訪問授業

○目的：日韓外交正常化50周年にあたり、過去の歴史や現状をふまえて、これからのより良い日韓関係を構築してゆくために、日本やヒロシマの人々の平和と友好を希求する姿勢を示す。また、持続可能な社会の発展に資するために、日韓の報道のみから現在の日韓関係を固定観念化することなく、クリティカルに物事をとらえる。

○日時：平成27年10月6日（火）8：30～16：30

○対象生徒：韓国ミチュホル外国語高等学校 日本語学科生徒

○会場：韓国ミチュホル外国語高等学校

○講義内容：新しい日韓関係を考える。

Part 1：日本に対するイメージを考える

Part 2：日本の文化紹介

Part 3：日韓の報道から見る心配なこと

Part 4：日本に根づく韓国文化

Part 5：「ヒロシマ」を知る

Part 6：より良い韓日関係の構築に向けて

(5) 広島大学留学生による講演 「Youは何しに日本へ？」

○目的：広島大学の留学生から直に話を聞き、他国の文化や価値観に触れる中で、国際交流への興味・関心や学習意欲を高める。

○日時：平成27年10月8日（木）14：30～15：20～

○対象生徒：1学年 全生徒240名（各ホームルームで実施する）

○講話内容：「Youは何しに日本へ？」

①日本に来た理由・目的

②故郷について

③自分や国の将来について

④英語学習法について

○概要：広島大学の留学生6名に来校してもらい、1学年各ホームルームにおいて、「Youは何しに日本へ？」という題目で講演をしてもらった。留学生が質問を促すと、積極的に質問をしていた。また、留学生は6名とも英語を母国語としないアジア、ヨーロッパ、アフリカの国々の出身者であり、いろいろな国の現状を聞き異文化への興味関心を持たせることができた。

(6) 東広島ESD研究大会の開催

○日時：平成27年10月29日（木）13時30分～

○会場：広島大学 K201大講義室

○後援：広島県教育委員会、東広島市教育委員会、ASPUivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターACCU）

○実践発表

・東広島市立吉川小学校

「主体的に学び、ふるさと吉川を創ろうとする子どもの育成」
～思考力が高まるかわり合いを通して～

- ・東広島市立志和中学校 「和文化学習の創造」～心技体一致の学び～
- ・広島県立賀茂高等学校 「国際教育の実践」
- ・韓国ミチュホル外国語高等学校 「人口問題に関する教育について」
- ・広島大学ユネスコスクール委員会 「ESD/ユネスコスクールの普及と推進のために」

○講演：『わが国の学校におけるESDの役割とその実践』

- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター

基礎研究部総括研究官

松原 憲治

○ACCU活動報告「変化の担い手をはぐくむ学習」

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 教育協力部 松尾 奈緒子

○成果：県内の小・中・高・大及び行政関係者120名が参加し、地域で一体となったESDの推進について、共通認識を深めることができた。

(6) 海外のユネスコスクール(姉妹校)の教員2名が韓国の文化について授業を行う。

○目的：持続可能な社会を構築し、世界的な視野に立って国際社会の平和と発展に貢献するために必要なグローバルな視点を養う。

○日時：平成27年11月6日(金)

○対象生徒：1学年2クラス 2学年2クラス

○講師：姉妹校 韓国ミチュホル外国語高等学校 英語教師1名 日本語教師1名

○講義内容：1学年 伝統的な遊びを通して韓国文化を知る。

2学年 お面を通して韓国文化を知る

(7) 海外のユネスコスクールの来校

○日時：平成27年12月19日(木)

○日程：歓迎式典，昼食交流会，授業参加，ホームルール交流，ミチュホル生徒による歌とダンスパフォーマンス，フォークダンス，夕食交流会

○訪問したミチュホルの生徒数：47名(男子 12名，女子 35名)

(8) 海外のユネスコスクールの訪問

○日時：平成28年1月19日(火)～21日(木)

○日程：〈1日目〉交流会，ホームステイ〈2日目〉授業参加，ソウル市内で韓国文化研修

○人数：2学年生徒22名

4 取組の成果と今後の課題

○外国語を使用する機会を与えて，コミュニケーション能力が向上した。

○相手を意識させることによって，相手の国を知り，自国への理解も深まった。

○学校内外の人材や組織との連携を促進し，身近なところから世界とのつながりを感じ，学校における国際教育の充実・活性化を図っていくことが課題。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

■ 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)

□ 時間外活動の時間を使用

□ ユネスコクラブの活動として実施

□ その他 ()